

平成 28 年度 第 4 回 静岡市文化振興審議会 議事録

- 1 日 時 平成 29 年 1 月 25 日 (水) 15 時～16 時 30 分
- 2 場 所 静岡市役所 本館 4 階 44 会議室
- 3 出席者 (委 員)
上利会長、佐々木副会長、家木委員、掛井委員、久保田委員、
是永委員、鈴木委員、田中委員、成島委員
(市当局)
木村観光交流文化局長、
矢澤参与兼文化振興課長、酒井課長補佐兼文化交流係長、
永田主幹兼施設管理係長、萩原文化プログラム推進係長、
三浦副主幹
- 4 傍聴者 0 人
- 5 会議内容 1 開会
2 議事
(1) 静岡市文化振興計画 (最終案) の検討について
3 事務連絡
4 閉会

【会議録】

(議 事)

上利会長

本日の議題は、お手元にありますようにただひとつで、静岡市文化振興計画の最終案の検討についてということになっております。

前回の我々の会議の後に、パブリックコメントなどを実施し、いくつかの意見が寄せられて、それを基に修正を加えていただいているということになっていると思います。それでは事務局から、修正等についての説明をお願いします。

事務局 (酒井)

< パブリックコメントの結果及び静岡市文化振興計画 (最終案) について説明 >

上利会長

事務局からご説明いただきました修正等を含めた最終案に関しまして、ご意見、ご質問等はございますか。

上利会長

こちらの最終案ではないのですが、黄色い付箋が貼られている資料の「まちは劇場」プロジェクトの④に片手落ちという表現があるのですが、これは現在、盲目的と同じように使わない言葉ではないかと思うので、少し気になりました。

成島委員

市の文化施設というのは、市の文化振興財団が指定管理をとっているところばかりではないのですね。市の文化振興財団がとっているところは、公募でやっていますか。

事務局（酒井）

公募と非公募と両方でやっています。文化会館や清水文化会館は公募ですし、より専門性が高い静岡音楽館、静岡科学館、それから静岡市美術館、これらは非公募となっています。

成島委員

パブリックコメントはさすがに、2020年のオリパラの文化プログラムに言及している方が思いのほか多いので、すごくショックを受けました。すごい浸透率だと思います。

佐々木副会長

大学などに説明をされて学生たちは答えていますので、そういう人たちには説明が浸透しているという理解でいいですね。普通にパブリックコメントにかけたら、そんな反響はないけれど、学生たちはしっかり答えているということですね。

実は、ちょうど同じ時期に、名古屋市の文化振興計画改定の座長をやっているのですが、名古屋市のほうがはるかに人口が大きいだけでなく、コメントの件数は少ないです。こういう形で若い人の意見を反映させたということは、それなりにいいなと思います。こんな詳しく書くと、文化関係者なら詳しく書けるのだけでも、多分学生たちからすると、コメントすることが新鮮な体験で、一生懸命書いたという点はよかったのではないかと思います。

全体的なことでは感想を言いますが、先程、18ページのところの冒頭に3行入りまして、そのことで前半と後半のつながりが上手くいっているということですね、文化庁では今、創造都市の取組をさらに推進するということをしてしまして、今年の4月から地域文化創生本部というものを、京都への移転の先行形態としてやります。そこでは主に文化による地域再生を担当する予定をしてしまして、オリンピック文化プログラムの全国展開の中心は、創造都市ネットワークに入っている地域に担ってもらおうということになっているので、助成金を含めて、様々な施策を活かしていただきたいと思っています。

最後に数値目標が、3つの創造的人づくり、魅力づくり、にぎわいづくりに対応して上がっていて、最初だけは50%、次40、40と少し控えめなので、現在の目標数字から見たらちょうど10%ずつ上がっているの、これでもいいかなとは思いますが、

なんとなく全部5割でもよかったかなと思います。全体としては以上です。

上利会長

今の御意見は、基本的にはお褒めの言葉になっていますが、ついでに全部50にしたらという意見でしたが。

事務局（矢澤）

そういうご意見もあったのですが、魅力づくりとにぎわいづくりの40、40についてですが、アンケートでどちらでもないと回答した方がだいたい30%ずついらっしゃいまして、その30%の3分の1に当たる10%ずつをアップしたいという形で、そちらの数値目標とさせていただきました。

家木委員

この文化振興計画が、第3次総合計画の中にどのように位置付けられているのか、その点をもう少しはっきりさせたほうがいいのか、このままでいいのか。基本的なことですが、私はわかりませんのでお聞きしたいのですが。

上利会長

まず、事務局の方からその関連性についてお願いします。

事務局（酒井）

第3次総合計画が既にスタートしているわけですが、第3次総合計画は本市のまちづくりの最上位計画として位置付けられているもので、これにはもちろん目指す都市像が掲げられています。それを文化の面から実現するための、その下に続く個別計画のひとつとしてこちらの文化振興計画を位置付けております。この文化振興計画の案の2ページのほうに、第1章の3でございまして計画の位置付けということで簡単に説明をさせていただいております。

掛井委員

ちなみに、文化の側面以外での、その3次総を達成するための個別計画というのは他にありますか。

事務局（酒井）

例えば、スポーツ振興計画とか、生涯学習推進大綱など、市の各部署、部署で様々な個別計画を作っています。

観光交流文化局長

補足ですが、私はちょうど第3次総合計画を作る方を担当していた企画部長だったのですが、第2次総合計画までは、どちらかというと総合計画があって、それとは別に各分野でそれぞれの個別計画を持っていて、それが必ずしも総合計画とリンクして

いない部分がありまして、その反省を踏まえて、各部局の個別計画というのは総合計画の下にというのが当たり前のような話ですので、各分野の担当は複数の局がまたがっているのですが、それが総合計画を作るときに整合できるように合わせて作っております。それなので、目標とか理念とか計画の期間とかは、すべて総合計画が最上位になるような形になっておりますので、各部局がもっている分野もすべて総合計画に集まるような、そんな体系になっていきます。また別の側面として総合計画は従来ですと、いわゆる市の企画部門が勝手に作ったのだと、そのように思っている方がいたのですが、総合計画をオール静岡で作ったという形にしましたので、職員の意識、またそれを市民に広めるに当たっての、ひとつの方針としてやらせていただきました。今回の文化振興計画も、いわゆる総合計画の文化の部門の個別計画という、最上位計画というのはそんなに細かく書きませんので、それに基づいて書く、いろいろな分野の計画をそれに従うような形で作るというこういう体系になっていきます。

上利会長

こちらでは文化に関する個別計画ということで、それが総合計画を実現するためにというお話だったと思うのですが、その他の個別計画とこれとの突合せのようなことは、どのように行われるということなのでしょう。

例えば先ほどの青字の創造都市の時には、地域振興、観光、産業などとの分野でうんぬんというのが出てきて、推進体制のところでは、観光、産業、教育、その他の行政分野との連携を図りますとある。その連携が、この文化の個別計画と他の個別計画との連動という形ではどのように起こるのか、ご説明いただければと思います。

事務局（酒井）

この計画は作りっぱなしではいけないものですから、来年度以降はこの計画の進捗管理と評価という形に移っていきます。委員の皆さまにも、引き続きご協力いただくところなのですが、もちろん市役所の内部でも関係課に集まっていただいて会議をもち、この計画の推進それから文化の振興を図っていく中で、例えば観光なら観光課の職員が出てきますので、観光の計画の観点と摺合せ、あるいは産業、経済局にも入っていただきまして、そういった分野との整合性を図っていくということで調整を図りながら、市として全体的に文化の振興を図っていくという形になります。

上利会長

そうしますと、この文化振興計画、その他の個別計画があって、これが軸となって実際の運営上のところで摺合せということが起こるということですか。今のご説明でよろしいでしょうか。

田中委員

第4章の最後の方に、いろいろな施策（主要事業）の具体例が書かれていて、以前のものに比べ随分すっきりとよく整理されわかりやすくなっていますが、最後のリーディングプロジェクトというのは、以前は割と個別な例を出したリーディングプロジ

エクトになっていたように思うのですが、この主要事業の中でこれを取り上げてそういうものをリーディングプロジェクトにしていくということなのでしょうか。

事務局（酒井）

「まちは劇場」プロジェクトというのがとても広い概念で、市としても推進しているもので、21 ページに文章では表記してあってなかなかこれを一読してもわかりにくいのですが、例えば今年度から文化の分野では中心市街地で先行的に取り組みを始めておりまして、「まちかどコンサート」とか、市内のそういった人が多く集まるところで少人数編成のちょっとしたコンサートを実施するといった事業を始めております。「まちは劇場」プロジェクトの文化の分野において、この計画で推進を図って、全体的な文化の底上げを図っていくということで汲み取っていただければと思います。

田中委員

リーディングプロジェクトというのは、今後個別にそういういろいろなものをプロジェクトに位置付けて進めていくということですね。

事務局（酒井）

総称して「まちは劇場」プロジェクトと言います。

上利会長

21 ページのところでは、設定しますという未来形で書いてあるということですが、これはまだ未定ということなのでしょうか。

事務局（酒井）

すでに始めている事業としては、先程述べました「まちかどコンサート」とかイメージが湧きやすいですし、5月にはパフォーマーが市内でパフォーマンスをするみたいなことは既にやっているのですが、「まちは劇場」プロジェクト自体が、この事業とこの事業とこの事業というようにがつつり整理しているわけではなくて、他にもこんな取組ができるのではないかというものもございますので、予算のからみもありますけれども、どんどん文化の底上げにつながるような、リーディングプロジェクトとして考えられるものは、個別の事業の中で推進を図っていきたいと考えております。

上利会長

創造都市ということになって、創造的な人づくり、魅力づくり、にぎわいづくりと3つにまとまっているところは、コアがはっきりするのでいいと思います。そこで具体的な主要事業というのが20 ページに上がっていますが、この中で、リーディングプロジェクトのメインになるようなものが見えてくるとわかりやすいのではないかと思います。今のご説明だと次から次へとリーディングプロジェクトになるものを作っていくまいというように聞こえたので、主要事業に3つの視点があ

る以上は、それぞれにウエイトがかかるようなものをプロジェクトとして進めていくのがいいのではないかとも思うのですがいかがでしょうか。ここに挙げられているのは、基本的に今やられているものということですね。この中でウエイトの主要を作っていくということなのか、新たに何かをリーディングプロジェクトとしてウエイトをかけて、ここに入れていくかということなのか、その辺りの展望についてご説明いただきたい。

事務局（矢澤）

「まちは劇場」プロジェクトにつきましては、今年度から新たに取り組みを始めさせていただいて、実際に文化振興課で実施している事業が「オーケストラ事業」と「パフォーマンスアート事業」、「東静岡アートパーク事業」を推進事業として上げさせていただいております。にぎわいづくりとしては視点3に、魅力づくりについてはこの中間の「アート&スポーツ／ヒロバ」整備事業、これらも「まちは劇場」プロジェクトのひとつということになってきますので、現在はこの主要事業のこの3つの四角の中に入る事業で「まちは劇場」プロジェクトのひとつになるものとして紹介させていただいた部分なのかと思いますが、今後各課で実施している事業あるいは民間が実施している事業も含めて「まちは劇場」プロジェクトの事業として推進していきたいと考えていますので、主要事業については今後いろいろな形で書き込まれていくと考えます。

上利会長

せっかく3つの視点を作ったので、ある事業を起こした時には、これは特に人づくりに有効だとか、そういうビジョンを持ちながらやっていただくといいと思います。

鈴木委員

そもそも、カタカナなのですが、リーディングプロジェクトというのは引っ張ってくる事業ということなのか。

事務局（酒井）

重点事業と捉えていただければよろしいかと思います。

鈴木委員

カタカナの意味がわからなかったものですから。他にも私みたいな人がいるのではないかと。

事務局（酒井）

一番最初に遡ってしまうのですが、市役所内の関係課で集まって、たたき台として素案を示したときに、この計画内の重点事業ということで表記してあったのですが、3次総のほうで重点事業という言葉が使われているということで、そちらの課の方からわかりにくいというご意見があって、リーディングプロジェクトとしたほうがいい

のではないかとということで変えさせていただいた経緯があります。

上利会長

括弧して重点事業と入れるのはどうでしょうか。

成島委員

創造都市なのですが、地域課題の解決を図るということが必要になっているということで、同時に「まちは劇場」プロジェクトの中でも、シティプロモーションだったり交流人口の増加、定住人口の増加といったことを、ひとつの目的として挙げていただいていると思うのですが、この成果の部分あるいは現状の課題の部分では、基本的に文化に関する現状の分析という形になっているので、文化がどうなるのかという質問に対する回答だと思うのですが、ひとつには地域課題といったものが成果指標の中で何らかの数値なり、例えば経済波及効果だったり、シティプロモーション効果ということは、この成果指標の中に入れなくていいのだろうかという提案です。

事務局（酒井）

経済的な観点から言いますと、第2回目の審議会の際に、指標について案を10本くらい出させていただいて、その中にも経済的な観点を入れさせていただき、審議会の中でもご議論をいただいたのですが、若干、設定の仕方が難しい面があるということで、外させていただいた経緯がございます。ただアンケートになってはしまいますが、一番下のにぎわいづくりの観点から、にぎわいが生まれているという広い意味での経済的な観点も含むとして、3番目の指標を広く捉えられないかと思っています。

上利会長

この指標に関しては、夏頃でしたか、あまり数を多くしないで絞ろうという話があって、全く数値をとらないのではなくて、この下の下位の部分でそれをサポートするような数値を取っていこうということだったと思います。

久保田委員

確かにその結論になったのもよくわかっているのですが、今おっしゃられたところのすべてが、「〇〇をしている市民の割合」、「〇〇と思う市民の割合」と、市民がどう思っているのかということを知っているわけですが、本来的にシティプロモーション的なものというのは、他の市の人が静岡をどう思うかということが視点として欲しいと思うところがあって、静岡がそういった文化的なまちだから遊びに来ようという観光視点でいうと、そこのところが欲しいというのがあるのです。だからそういうまちになってくれれば、お客さんが来るのではないかとというのが少しあるので、そこは少し入れたいかなと、今確かにお話を聞いて気が付いたのですが。これだと市民がどう思っていて、市民がこのまちは文化的なまちだと思ってくれたのはいいけれど、よそから見たらそうでもないという。

上利会長

この成果指標のベースが市民意識調査だから、基本的に市民を対象にしていたというところで、それをさらに絞り込んで3つにしたという経緯があるので、おっしゃるように他の市の人、他の県の人はどう見ているかという国内の波及とか、よく国際的な発信ということは言われましたけれど、そういうのをどのように考えていくかというところだと思いますけれども。

佐々木副会長

そのあたりは、総合計画や、例えばこれが静岡市創造都市振興計画であれば、今のようない経済効果とか指標を挙げたほうがいいと思いますが、あくまで文化振興計画ですから、市民がどうアイデンティティやプライドとして捉えているかということだと思います。実は、名古屋市はそれが政令市の中で低いです。

家木委員

この文化振興計画を市民にオープンにした時に、これを見て市民がどう思うのか。これを見て、字ばかり多くて読みたくない。ある程度、円グラフも入っているのだけれど、できたらもう少し市民が飛びつくようなデザインとか意匠とか、そういうものがもう一歩できたらもっといいのではないかと思います。

上利会長

それは市のほうでお考えのようなので、それをご紹介いただけますでしょうか。

事務局（酒井）

これをそのまま印刷をかけても、なかなか手に取って見ていただけないということですので、印刷をかける時にポイント、字の見やすい大きさですとか、あるいは手に取ってわかりやすいようなイラストを入れるなど、そういったところはもちろん重視いたします。

これを本編として、概要版として3～4ページになりますか、手に取ってわかりやすいように主だったところ、重要な箇所を抜き出したような概要版を厚みのあるものを作って、それを配布して広くいきわたるようにしていきたいと思います。

事務局（矢澤）

こちらは3次総の冊子なのですが、実際に文言だけが書き連ねてあるだけではなく、イラストも中に入れながら、読みやすい形で作らせていただいていますので、この計画につきましても、やはり印刷、冊子にする場合には、そういった形のデザインですとかイラストですとかというものを盛り込んだ形で作らせていただきたいと思います。

上利会長

それはいつ頃できるものなのですか。

事務局（酒井）

3月中に完成させる予定であります。

上利会長

その原案を皆さまにメール添付などで見ていただくと、また違う意見が出たりもするので、少しでも意見が反映できたらという気もします。

事務局（矢澤）

全体をお示しするのは、恐らくメールにすると容量が大きくなってしまうものから、一部こんなイラストがございますということはご紹介できると思います。

上利会長

私が申し上げたいのは、役所風ではなくて一般の人から見ておもしろそうだなと思って見られる形になっているかとか、違う立場から見ると、何か参考になることもあるかと思ったのですけれども。

推進主体が市だけでなく、市民やいろいろな人たちがここに含まれていると書いてある以上、そういう人たちにもアピールできるものでなくてはいけないということです。送りつければ読んでくれるというものではないので、今のことを充分考えていただきたい。

観光交流文化局長

思わず手に取りたくなるような、開いてもらってなんぼのものでありますので、それはちゃんと念頭に入れながら考えさせていただきます。

掛井委員

再確認という意味で教えてください。21 ページの先ほどお話のあった、リーディングプロジェクト及び「まちが劇場」というところですが、3のリーディングプロジェクトの下に「まちが劇場」プロジェクトの推進ということで、「まちが劇場」プロジェクトの説明があります。「まちが劇場」プロジェクトというのはリーディングプロジェクト全体を包括するひとつのキャッチテーマなのでしょうか。

20 ページに戻ると、他の事業と並列ですね。例えば、「清水にぎわい落語まつり」や「富士山コスプレ世界大会」にしても、すべては「まちが劇場」プロジェクトという認識の中で動いていくのか、リーディングプロジェクトと書いてある下に「まちが劇場」の推進プロジェクトとあり、これがリーディングプロジェクトになると思ってしまう。先ほどリーディングプロジェクトは、これからいろいろ個別の事業が行われていくとのご説明があったのですが、なかなかそこまで日本語を解釈して読まれる市民の方がいらっしゃるのかという気がしたのですが、いかがなのでしょう。

リーディングプロジェクトなるものは、「まちが劇場」プロジェクトというこの定義の下でいろいろな個別の事業が行われるという認識でいいのか。「まちが劇場」プロジェクトというのは、あくまでひとつの個別の事業として捉えていいのか。入口の

ところへ巻き戻ってしまって申し訳ないですが、その確認です。6年間この「まちは劇場」プロジェクトというものは動かずに、この概念というか理念はずっと計画期間中一貫していくということによろしいですか。

事務局（酒井）

「まちは劇場」プロジェクトを推進していくということがリーディングプロジェクトですので、個別事業名のところの、例えば「オーケストラ事業」ですとか「パフォーミングアーツ事業」に限られるものではなく、「まちは劇場」プロジェクトと考えられることを、この6年間かけて推進していくことによって文化の振興、底上げを図っていくということで解釈していただければと思います。

掛井委員

先ほど、手に取っていただけるようなレイアウトとかデザインのお話がありました。なんとなく理解ができたのですが、これがそのまま市民の手元なりいろいろな方に渡ると、やはり「まちは劇場」も横並びのひとつのものなのかという印象を与えてしまうのではないかという気がします。そこは事務局が十分わかっていらっしゃると思うので、それを含めたレイアウトにするのですね。

久保田委員

確かに主要事業が並んでいるところに他団体がやっていることが並んでいて、すでに行われていることも列記している部分があって、その中に東静岡の「まちは劇場」プロジェクトが一番下に入っていて。先ほどの話だと、この上の「アート&スポーツ／ヒロバ」もこのリーディングに入っているというご説明だったものですから、そのまま並べてあると他の部分はどこがやっているのかと。これはどこがやっているみたいなことを書くとか、少しわかりやすくしたほうがいいですね。

上利会長

今、このご指摘を受けて、このリーディングプロジェクトの下にこのように華々しくプロジェクトの推進と書いてあって、これがリーディングプロジェクトの内容のようにも見える。でもおっしゃったように、20ページを見るとこの表にも載っていて、どうもよくわかりません。簡単なものだけでなく、ここの中の書き方も少し変えないといけないかなと思います。

観光交流文化局長

ご指摘のとおり、これをそのまま見ると非常に紛らわしい。これから設定するのか、「まちは劇場」プロジェクトというのはリーディングプロジェクトなのか、それともリーディングプロジェクトのひとつなのかというのが確かにあいまいに捉えられますので、ここは少し文言も含めて明確にします。「まちは劇場」プロジェクトは、リーディングプロジェクトのひとつでありますので、ただどこにも書いてないですね。設定しますとして突然出てくるので、その関係性がよくわからないという。

掛井委員

例えば、その他団体が事業として個別でおやりになる時に、そのポスターだとか看板だとかというところに、ひとつのキャッチコピーとして「まちは劇場」という言葉を使うことはぜんぜん構わないということですか。

事務局（矢澤）

「まちは劇場」の新しいロゴができて、それを各事業のチラシ、ポスターなどに入れて、「まちは劇場」プロジェクトのひとつの事業だということでのお知らせはさせていただきます。

掛井委員

リーディングプロジェクトというプロジェクトと、「まちは劇場」プロジェクトというプロジェクトとは、ちょっとニュアンスが違うのですね。

上利会長

今おっしゃっていたように、全部に「まちは劇場」プロジェクトというものを付けると。主要事業の 20 ページを見ると、今やっていたものがずらずらとあって、統一性がないと、今までと何が変わっていくのかというのが心配だったのですが、それが「まちは劇場」プロジェクトなりの文言を作ることによって、ある統一性が生まれてきて、みんなの共有感ができてくるとすごくいいなと思いますけれども。

上利会長

どこかに入っていたのですが、県と市の関わり方、連携の仕方というのに、今何か問題があるのでしょうか。ただ、美術館も県と市があるし、演奏会のホールもそういうようになっていて、どういう形になるのが望ましいのか。上手くいっていないとすると何が問題なのかということをお聞きしたいのですが。せっかく、そちらにお二人がそれぞれの立場でいらっしゃるので、本当のところを聞きたいのですが。

成島委員

SPACに関して言えば、「まちは劇場」プロジェクトの中の先ほど話に上がっていた、今度の5月にも実施するストレンジシードというものの運営の中に入っていて、駿府城公園でのパフォーマンスをやらせていただきます。現状では、この中にSPACという文言はありませんが、文化団体に期待される役割に当たるのかというようには捉えています。市の財団ではないけれども、一文化団体として求められている役割として、私どもとしてはそれこそSPACを利用してというか、利用させていただいて県と市の両方が、今2020年のオリンピックの文化プログラムに対して、あるいはその先に対して文化振興なりいろいろなことを進めていこうと両者がそれぞれ思っている中で、その中間というかハブになるようなものになるのがうちであるのかなというようには考えています。

田中委員

自治体間の正規レベルではいろいろあるのでしょうけれども、前線で実際にやっている中ではそんな垣根も何もないですね。実際、市の事業でもSPACさんが美術館などでの小さいものでも来ていただいてイベントをやりますし、例えば静岡大学を核にした「めぐりアート」なんて、東静岡とか県立美術館、市の美術館と、我々同じ学芸員同志が協議してそれぞれの立場で協力してやっています。実際の仕事上で常に顔も合わせますし、現場では意識していないですね。

成島委員

県ですとすごく広域的な、県全体というような役割も一方では求められますが、市の文化振興財団がやっていらっしゃるような、例えば、今日も静岡新聞の記事に載せていただいています。蒲原の生涯学習センターに行かせていただいて、演劇講座をやったのですが、地域に密着した層に接するというのは、ひとつには市の文化振興財団が窓口になって、そこにSPACの俳優に行かせていただいてというような連携を取らせていただいたりもしています。そういうところで見えてくるのは、昨日は平日の昼間なので、高齢者の方が多かったのですが、今、地方都市に置かれている高齢化社会というような中で、そういう方たちがどう外に出ていくかということにも、文化政策にも直結していると思います。市と県というのは、単純に市と県というだけではなく、SPACに関してはソフトがあるというか、作品とか俳優とかがいるという部分で活用をして連携をしていくということかなと思います。

田中委員

行政はともかく、現場レベルではソフトパワーですよ。ソフトパワーで横の連携が取れるので、そんな軋轢もないです。

上利会長

ひとつの問題として、県では東を文学、西を音楽、中部は演劇という捉え方をしています。しずおか文化はなかなか特色がなくて、特色を持っている市があったりすればそれを活かしてうまくいくのだけれども、静岡は何の文化を外に売れるのか、それが演劇なのかどうかというのは、県の立場と市の立場では少しずれているのではないのでしょうか。静岡としては、SPACの方がいろいろ活動されているのはとてもいいことだと思いますけれども、静岡市としては演劇文化を表に出すかということ、そうも簡単にはいかないのではないかと。しずおか文化ということで、静岡市だけでなく県中部としての特徴を、この周辺の市に吸収力を持つような文化の作り方は何かというように思います。今、演劇ということで、中部という特色付けをされてる県としては、どういように見ているのでしょうか。

観光文化交流局長

市としては、一番集客力の大きいイベントというのが大道芸ワールドカップだという中で、いわゆるパフォーミングアーツというのは演劇も含まれるので、身体表現と

かを使ってパフォーミングの芸術というイメージで、SPACさんももちろん一緒になってやっていこうという意味合いがあります。ユネスコ創造都市ネットワークの方も、今はパフォーミングアーツという分野がなく、ロビー活動をやってそういうジャンルを作ったらどうだという議論までしているところで、それが今年は205万人も来たわけですが、非常にまだ知名度が低くて、秋のあの11月の時期だけではなくて年間を通じて、静岡に来れば何かワクワクドキドキするまち、そういうまちにしていこうというのが、正に「まちは劇場」プロジェクトという形です。

まちなかに小劇場がいくつかできて、これまでだいぶ種まきができてきて、だんだん芽が出始めています。やはり、これを行政も支援してやっていこうという中で、県と市の関係も、担当同士は以前より親密にやらせていただいております。

上利会長

先程の20ページの主要事業の中に、パフォーミングアーツ事業というものがあって、これが大きくくりでは「まちは劇場」プロジェクトであって、いわゆる演劇とかに限らず、音楽のパフォーマンスというものも含めて、包括的に市としてもそういうものを進めていくと、当然SPACさんということなのですね。

観光交流文化局長

イメージ的には、そういうことを考えています。

成島委員

パブリックコメントの中にも、県と市というのがあったことは確かで、そういったものをうまくソフトで超えていきたいと思います。具体的な事業を通してできればいいなと思います。

上利会長

先ほどおっしゃられたような県と市が連携した事業を展開していけば、市民にもよかったと思ってもらえるということですね。

観光文化交流局長

成島さんにさっき言われてはつとしたのですが、24ページの新規作成ページに、市内の主な文化関係施設の役割というところがありますが、とりあえず静岡市の文化振興計画ということで、市の施設しか書いていないですね。よく考えると、市内にある主な文化関係施設ですので、ここまで詳しくなくても、このほかというところに、県の地球環境ミュージアムとか、野外芸術劇場とかを入れておかないといけないかなと思います。

成島委員

ありがたいです。なかなか市の観光協会のホームページでも、市の文化施設になってしまうので、観光協会のホームページでも県と市が分断されているので。

観光交流文化局長

ビジターによっては市の施設も、国の施設も、県の施設も同じですので、ましてや市の境というのに関係ないですので、それはやはり内向きの視点でやるとそうになってしまうということなので改めて記載をお願いしたい。

上利会長

この一年間、いろいろ意見を集めて修正しての最終案なので、ここでものすごくたくさんのはこれは変だという意見が出てはこないと思いますが、いかがでしょうか。もし特にとということであれば、少し時間が早いですがこれで締めて事務局にお返ししようと思います。